

DATA FILE



斜方晶系

名 前	THULITE (トゥーライト) / 桃簾石
化学組成	$\text{Ca}_2\text{Al}_3(\text{SiO}_4)_3\text{OH}$
色	ピンク色、赤色
光 沢	ガラス光沢、真珠光沢
蛍 光	なし (一部のものにオレンジ色の蛍光あり)
条 痕	明灰色
劈 開	完全
断 口	不平坦
硬 度	6.5
比 重	3.2 ~ 3.4

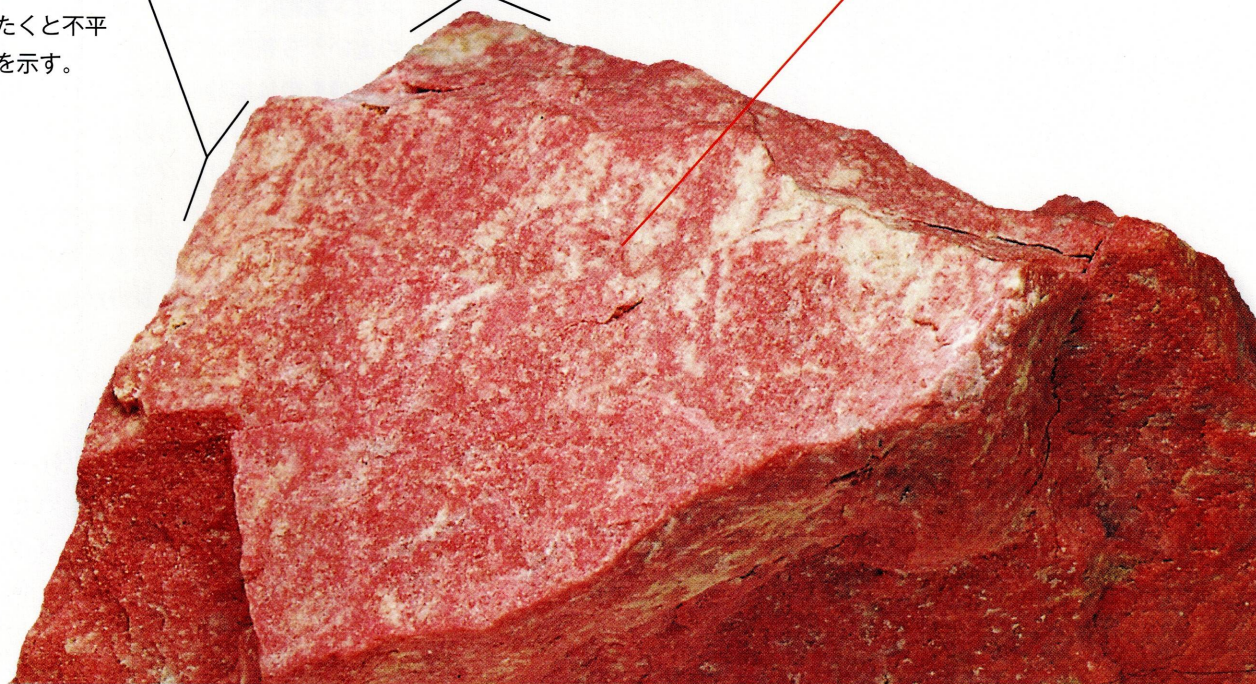
桃簾石 THULITE

ト

素焼きの陶板にこすりつけると明るい灰色の条痕が残る。

塊状で産出した桃簾石。白色部分は石英から成る。

劈開は完全で、ハンマーでたたくと不平坦な断口を示す。



紫外線ランプを照射するとオレンジ色の蛍光を放つものがある。

塊状であられるものが多いが、板柱状の結晶も見られる。

独立した鉱物種ではなく、灰れん石の変種として分類される。

ミネラルファイル

ケイ酸塩鉱物

灰れん石の変種

わずかに含まれるマンガンの影響によりピンク色や赤色をした桃簾石は、独立した鉱物種ではなく、緑簾石グループに属する灰れん石の変種として分類される。本来、白色の鉱物である灰れん石は、微量の含有物により発色するのが特徴で、バナジウムの影響で青紫色にあらわれたタンザナイトも変種のひとつだ。なお、桃簾石もタンザナイトも、化学組成上に含有物であるマンガンやバナジウムは表示されない。

ト 桃 簾 石



▲イタリアのトリノで産出した桃簾石。

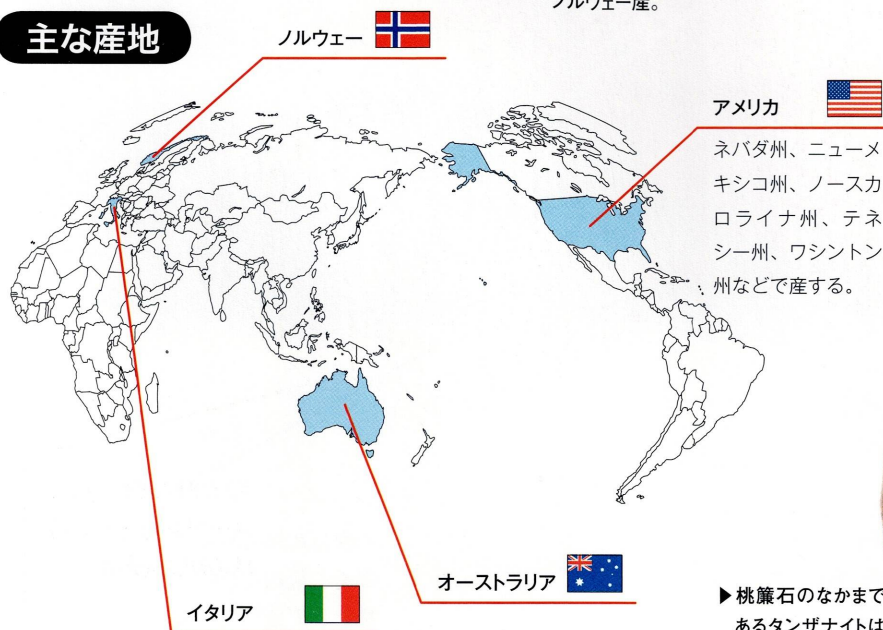


▲緻密な集合体であられた桃簾石。
ノルウェー産。

主に塊状で産出

主に広域変成岩や接触変成岩中に生成し、明らかな結晶形を示さず塊状で産出することが多い桃簾石は、菱マンガン鉱やばら輝石などのマンガン鉱物に外見がよく似ているが、化学組成の違いから判別は容易。熱に変化しやすく、薄い色のものは加熱によって色合いを強めることが可能で、質の良いものはカボション・カットが施されてイヤリングやブローチなどのアクセサリに加工される。日本で桃簾石は産出しないが、灰れん石の多形である単斜灰れん石のピンク色をしたものが、長野県などで見つかった。

主な産地



ノルウェー 

アメリカ 

ネバダ州、ニューメキシコ州、ノースカロライナ州、テネシー州、ワシントン州などで産する。

イタリア 

オーストラリア 

▶桃簾石のなかまであるタンザナイトは、バナジウムを含有するため青紫色であられる。

